

# 働き掛けヒント集について

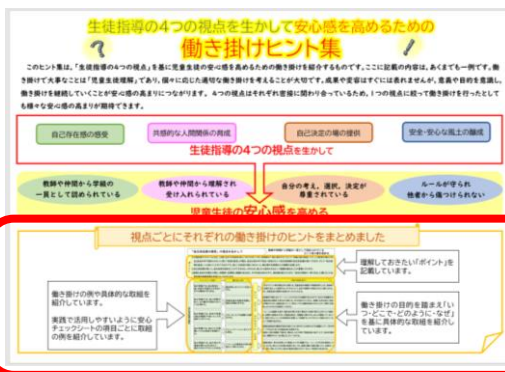
## 1. 働き掛けヒント集とは

「働き掛けヒント集」は、安心感を高める働き掛けについて、4つの視点ごとにポイントや具体例等を記載したツールです。具体例は、安心チェックシートで児童生徒に質問した項目ごとに記載しています。表紙と4つの視点で構成し、A4版5枚にまとめています。児童生徒一人一人の実態や学級の実態に合わせて適切な取組となるよう、ヒントとしてご活用ください。

## 2. 活用方法

安心感を高めるための生徒指導の4つの視点について理解する際や、状況に応じた働き掛けを考える際に活用してください。

〔表紙〕



理解しておきたい「ポイント」を記載しています。

「自己決定の場の提供」の視点を生かして

自分の考え、選択、決定が尊重されているという安心感を高める

- ☆自己決定とは、単に「自分で決めさせる」ことはありません。児童生徒が「自分で決めたい」「自分で決められる」、そして「自分で決めた」と感じることです。
- ☆自己決定までの過程
  - 1 自己決定の場と機会を設定します。
  - 2 自己決定のために、個に応じて必要な材料を提供します。
  - 3 児童生徒の決定を尊重します。その後の経過及び結果も見届け、必ず認めましょう。自己決定までの過程におけるコミュニケーションが大切です。
- ☆自己決定を繰り返すことによってレジリエンスも身に付きます。(レジリエンス＝失敗しても大丈夫、また頑張ろうと思え、立ち直る力のこと)
- ☆自分本位の決定ではなく、相手(他者)のためにもなる行動を選択しようが気持ちを促します。

働き掛けの例	ポイント	働き掛けの目的
私の学級では、自分(たち)で学習や生活の目標を決め、振り返りを行っている。	目標設定をして、取組の準備をする場面を設定する。	週初めの朝の会で、「学級の生活がより良くなるように」という視点で目標を立てる場面を作る。週終わりに班で振り返りを行い、全体で共有し、次週への意欲付けをする。
私の学級では、話し合いなど自分たちが中心となって活動する場面が多くある。	自分たちでルールを作る場面を設定する。	学級活動で、学級のルールについて考える機会を設ける。児童生徒の活動(話し合い)中、教師は多くを語らず見守る。決まったことには各自が自分の行為に責任を持つよう指導していく。
私の学級では、自分で調べたり制作したりするときに、先生や友達からアドバイスをもらえる。	自分で調べたり、制作したりする際には、個々に適切なアドバイスをする。	調べたり、制作したりする場面では、必要な情報を事前に伝える。一人で調べたり、考えたりする時間を、児童生徒の実態を考慮しながら、十分に確保する。作業しただけで終わらないように、制作過程や終了後に適切にアドバイスをする。自己評価や、その後の意欲につなげる。
私の学級では、私の考えを伝えたいと思う場面や機会がある。	考えるための目的や情報を提示する。	考えることが必要な場面では、活動が早く終わる児童生徒、時間を要する児童生徒を見据えて、その時間に行うことを事前に伝え、活動内容を明確にする。単に「考えさせる」ではなく、「考えられる」手立てを講じることで、児童生徒が安心して活動できるように支援する。
私の学級では、自分一人で考える場面で、必要な情報が示されている。	自分の考えを伝えようと思えるような支援をする。	発表の場面では、最初から全体の前で発表するのではなく、個々の段階を考慮する。例えば、自分の考えを自分の言葉で伝えられるようなペア活動から行う。また、失敗したり間違えたりしても、繰り返し自分の考えを伝えたいと思えるような励ましや支援を行う。

働き掛けの例や具体的な取組を紹介しています。実践しやすいよう安心チェックシートの項目ごとに例や取組を紹介しています。

働き掛けの目的を踏まえ「いつ」「どこで」「どのように」「なぜ」を基に具体的な取組を紹介しています。

〔例〕自己決定の場の提供